

雨水出水浸水想定区域図の公表について

下水道河川建設課

■雨水出水浸水想定区域図作成の経緯

①水防法の改正

水防法とは…

洪水や土砂災害から人々や財産を守るための法律。近年の気候変動の影響による降雨量の増加、それに伴う水害の激甚化・頻発化への対応を背景に令和3年7月に改正された。

令和元年東日本台風：

洪水浸水想定区域の指定対象ではない中小河川において、多くの浸水被害が発生。

→法改正により指定対象を追加。水害リスク情報の空白地帯の解消を目指す。

⇒下水道による浸水対策を実施する全ての団体に
雨水出水浸水想定区域を指定する必要が生じた。

②国の補助金の要件化

令和8年度以降、雨水整備における国の補助金を受けるためには、浸水想定区域図の作成が必要。

■ 雨水出水浸水想定区域とは…

想定最大規模降雨（起こり得る最も大きな規模の雨）が降った時に下水道などによって雨水が排除しきれずに浸水が想定される区域。水防法に規定。

茅ヶ崎市の想定最大規模降雨は1時間あたり153mmの降雨☔☔☔

（年超過確率1/1,000 = 1年間に発生する確率0.1%）

参考：下水道の雨水管の計画は1時間あたり50mmの降雨☔

→ 非常に強い雨を想定

■雨水出水浸水想定区域図



雨水出水浸水想定区域図 + 避難所の情報等 = ハザードマップ

■雨水出水浸水想定区域図の作成手順

浸水シミュレーションを用いて浸水状況を表現

- ① 既存の排水施設（下水道管、ポンプ場、道路側溝など）と地盤高をモデル化
- ② 想定最大規模降雨での浸水シミュレーションにより水の流れを再現

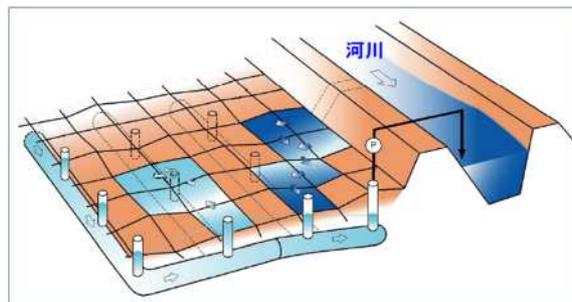


図 シミュレーションの概念図

出典：「流出解析モデル活用マニュアル（2017年3月）」（公財）日本下水道新技術機構

■現行の内水ハザードマップとの違い

	現行 内水ハザードマップ	今回 内水ハザードマップ	
管渠モデル	 管径600mm以上	 末端管渠まで	より実現象に近いモデル
対象降雨	 想定雨量 81mm/h	 想定最大規模降雨 153mm/h	より強い降雨における浸水エリアの特定

■今後のスケジュール

- 令和8年3月 雨水出水浸水想定区域の指定
雨水出水浸水想定区域図の公表（ホームページ等）
- 令和8年度以降 ハザードマップの作成（防災対策課）